

イカ娘陵辱・触手責め



見知らぬ男達とみずからの触手がイカ娘の秘壺を騷り尽くす

オールフルカラー  
18禁同人誌



イカ娘の侵略が地上に迫る！  
これは彼女の繰り出す魔の触手に敢然と立ち向かう正義の仲間達の物語！  
彼らは果たして勝利を収めることができるのか！？ 題して…

イカがなものは？

松本トリル研究所

今日も楽しい一日だったゲソ  
今夜はこの浜辺の拠点で  
人類侵略の計画を練り直そうじゃないイカ  
べ：別に寂しくなんかないゲソ！  
ん？変な男達がやってきたゲソ  
私に変な因縁をつけてきたゲソ  
なに？ 女が浜辺でそんな  
けしからんカッコをするな？  
条例違反？

フン  
こいつらは馬鹿でケソ  
私はイカ娘でゲソ  
人間のルールごとくで  
私を縛れるはずがないじゃないイカ  
なんだゲソ、その目は？  
この私が怖くないゲソか？  
ふっふっふ、つくづく人間は愚かゲソ  
この私の触手のまえに跪くゲソ！  
食らえゲソ——！

…あれ？おかしいじゃないイカ…  
触手がうまく動かないゲソ…  
ん？  
それは何ゲソ？  
三馬鹿博士から借りてきた？  
対火星光線銃？  
火星なら夕コじゃないイカ！

あつ！  
何をするゲソ！

触手を封じられたイカ娘は  
あっさり男達に捕まってしまった。  
ひらひらしたワンピースの下から  
幼い裸体が露出したかと思うと、  
男達の手がよってたかって  
彼女の身体をまさぐっていく。

おまん達  
こころ事おまん  
タダでは済まねばこ  
ンだよー！

やっやめな  
イカ！！

っほー  
幼女おぼい  
たまんぬー

おまん

たまんぬー

暗がりの中で白く光る裸体に、  
惹かれるように男達はイカ娘を  
愛撫した。プニプニとした  
弾力ある肌をもみくちゃにされ  
イカ娘は抗う。  
しかし抵抗むなしく股間の蕾を  
刺激され、彼女はビクンと反応した。

あ

ん

あ

ん  
ん  
たまんぬー

頼みの綱の触手が勝手に動く。  
その事実はい力娘を恐怖させ、  
萎縮させる。

っほほっ  
イカちゃん  
ニルにギンにギン

男はそう言うのと、イカ娘の手を  
みずからのペニスにあてがう。

堅く怒張した凶暴なソレを握らされ  
反射的に触手をふるおうと意識するが、  
触手は自由にならないどころか  
逆にペニスを優しく刺激し  
男達を悦ばせているではないか。

おおっ!  
尿道口責めっ  
イカちゃん  
マニマニワガザン

お、ほ、僕も  
僕も

恐怖に震える掌で  
ペニスの熱さを感じてしまい、涙ぐむ。  
しかし、股間からの鋭い刺激でそんな  
感傷など消し飛んでしまう。  
ぴたりと閉じていたスジが広げられ、  
その間を舌が這う。

イカ娘の蕾から透明な汁が  
糸を引いた。それは確実に  
男の唾液ではないモノだった。  
経験したことのない感覚に  
戸惑いつつも、彼女は  
彼らの行為に疑問を持ち始めた。

おほおほ

いーやー  
塩味キーン  
おーいーゆー  
中まなナレナレ

マニマニワガザン

味覚の侵略行為  
サッ  
ハッ  
ハッ

陰裂を指で開かれ、普段は外気に触れることすらない場所にねっとり唾液を含んだ舌が入ってくる。

イカ娘は悲鳴を上げた。

あーんーんー！  
あーんーんー！  
あーんーんー！

それが合図だったかのよう  
男の熱い舌が股間を、性器をなめ回す。

荒い息と共にペチャペチャという  
恥ずかしい音が響き、イカ娘は  
身体を震わせて羞恥に痺れる。  
違う種族といえども、肉体は肉体である。  
性器を責められれば感じてしまう。

んんん  
んんん  
んんん

おーんーんー  
んんんんんんんんんん

イカ娘の舌を  
侵略する  
舌の先端が

ほら  
もっとなめ  
握る

あまりの羞恥に一瞬気が遠くなったが  
ペニスをよく握らされて我に返る。  
毒々しいほどに力サの開いたペニスが  
イカ娘に向けて欲望をむき出しにしていた。

血管の浮いた禍々しい  
男性器にくらべ、小さく  
華奢な手指はあまりにも  
非力に見える。  
ぎこちなくペニスをしごく  
指がびくんと痙攣した。  
無遠慮な舌がイカ娘の敏感な  
クリトリスをとらえ、  
ねぶったのだ。

お世の心  
クリトリス  
を

あーんーんー  
あーんーんー

んんんんんんんんんん

んんん  
んんん  
んんん

股間から響いてくる波のような刺激に、  
歯を食いしばって耐えるイカ娘。  
足の指をぎゅう、と握りしめて身体を  
硬くする。いかに辱めをうけようとも  
支配者としての誇りをかけて感じる  
わけにはいかない。

男達はけなげな侵略者が  
必死に快感に耐える姿を  
見ながら興奮を高めていった。  
皮肉にも羞恥に耐える  
イカ娘の姿こそが男達を  
高ぶらせるのだ。

小さな手を汚すように  
ペニスがうごめき、その度に  
ふくれていく。  
いやだ、と思った瞬間には  
熱い精液がビュルビュルと  
イカ娘の身体に降り注いだ。

それが何かわからず、  
イカ娘は震え、股間を濡らした。

てーんてーんてーん



ドロドロの精液を浴びせられて放心した身体が、くるりとひっくり返される。尻を突き出せられ、恥ずかしい場所が全て男達の目の前にさらけ出されてしまった。悲鳴を上げる間もなく、男達の節くれ立った指が秘所を襲う。

面白くないにやめろか女

いぎ

アナルもニニギーキ、とイけるぜ

イサ、イサ、イサ

舌で蕩けさせられた花弁に、つぶつと音を立てて指がめり込む。小さな花弁が引つ張られ、膣内まで震えているようだった。穴という穴を広げられ、敏感な内側を弄られる。イカ娘は、男達のおぞましい指に混ざって自分の触手が花弁を広げる手伝いをしていることに気がついたが、もはやどうすることも出来ずにただ翻弄されるだけだった。

あ

あ

あ

あ



男達はイカ娘をねちっこく愛撫し続けた。  
何時までもしつこく股間を弄り、肌を舐める。  
どんなに未成熟な身体でも  
ほくされてしまうような責めに、  
イカ娘の感覚が狂う。  
プライドまで溶かすような感覚に、  
イカ娘の身体が溶けていく。

ふっふっイカ、たご  
触手やなけり  
たんなる  
ロリ娘だな

んー  
どんなぬもんまこ  
塩の十ホー

おれ  
フンなめすおー



身体の微妙な変化に気がついたのか、責めが変わった。  
激しく花弁がこねくり回される。  
指が体壁をこすり、体内の敏感な場所を全て暴き出し、  
えぐるかのように指がうねる。  
小柄な身体に似合わない大きめのクリトリスが揉み潰され、  
ついにイカ娘は嬌声をあげてしまう。  
その声をきいた指が  
さらに動きを早めていく。

ロー  
おつた  
おつた  
おつた

おほ  
おほ  
おほ

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ



びくっ！ びくびくッ！  
イカ娘は初めての感覚に包まれた。  
身体の中をまさぐられ、かき回され  
内側の肉を擦りあげられ  
あげたことのない声を漏らした。

はひはひ

あはあは

侵略者の誇りもはすでになかった。  
ただ牝として身体を襲う快感に飲まれて痙攣した。  
あられもない姿を見て興奮した男達が次々と射精する。  
敏感になった身体は触手でさえも感じてしまう。  
次第に弛緩していく身体が、またもイカ娘を裏切る。  
感じすぎて失禁した。尿が男達を濡らしているのだ。  
男はそれに興奮し、また射精した。

はひ、はひと息も絶え絶えのイカ娘は  
自分のそんな姿が男達の欲望を  
さらに煽っていることに気がつかない。

侵略者としての矜持を奪われたイカ娘に  
反撃の機会はあるのだろうか？



男達はイカ娘を押さえつけ、身体を蹂躪する

ペニスを奥の奥まで届かせようとする。小さくてきつい肉壺は、巨大な肉棒にえくられながらも負けじと押し返してくるのだ。イカ娘の身体を動かさないように固定し子宮口まで犯しめくように激しく突き入れる。

ペニスが子宮口を叩くと、イカ娘はのけぞった。反射的に膣壁がギョウウツと締る。

太い肉棒に貫かれ、小さな身体を震わす。

イカ娘の目前にペニスが差し出された。ひっ、と息を吞んで顔を反らそうとするが頭を掴まれて無理矢理突きつけられる。男達はイカ娘の全てを奪うつもりなのだ。眼前でビクビクと波打つペニスは栗の花の臭いがした。

なんてゲソ？ その貧相な触手は！ 臭いでゲソ！ 近づけるなでゲソ！ なぜ人間はいちいち弱点を私に見せつけるのでゲソ？ 頭が悪いんじゃないイカ？

ならば弱点を攻撃してやるでゲソ!  
どうだゲソ! どうだゲソ!  
ふふん、効いているでゲソね!  
苦しそうでゲソ!  
弱点をさらす人間は馬鹿でゲソ!

ヌプヌプと粘膜が擦れる音が響く。  
四つん這いにされ、後ろから貫かれるイカ娘は、  
さらにその小さな口でも男達のペニスを  
舐めさせられていた。

チロチロと舌を出して龟头を舐める。  
だが、男の欲望がそんな見戯で  
満足するはずもない。  
頭をこづかれながら教え込まされ、  
次第に口中深くに  
男の物をくわえ込まされていく。  
その間も股間にめづめぶとペニスを  
突き立てる男の動きは止まる様子はない。

男のペニスを  
ゆりーイカだせ

くも  
くも  
くも

11. 11.  
11. 11.

こんなもの……こうしてやるでゲソ。  
この傘みたいな部分の裏が特に  
堪えるでゲソね?  
ふふふ、苦しそうでゲソね。  
とつと液をとばして  
私に侵略されるといいじゃないか!  
龟头が喉に当たる。  
奥まで突かれる度に  
フェラチオを始めると、  
貫かれながら  
身体を長大な物で

苦しさを紛らわすために  
手をあてがう。  
それがいつしか肉棒をさすり、  
陰囊を揉みだいてしまう。  
強制された行為が  
次第に奉仕と化していく。

ちゅ  
ちゅ  
ちゅ

ちゅ  
ちゅ  
ちゅ

じゅっぶっじゅっぶと  
口に溜めた唾液を  
ペニスに絡め、  
いつしか侵略を忘れて  
フェラチオに没頭する。  
後ろから犯す  
ペニスが深い。

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん



身体を貫かれた痛みと恐怖で固まっていた身体も執拗なピストンを受けて次第にほぐれていく。イカ娘が時折見せる反応に甘い響きが含まれているのを読み取った男は最後のとどめを放つべく尻に指を差し込みピストンを激しくする。甘い声が漏れる

身体が馴染んでいく度にペニスへの締め付けがゆるむ。そこを見計らい男はイカ娘の尻に腰を打ち付けるようにして深々と進入してゆく。小刻みに震える尻が可愛い。

はあ……はあん……。だんだん疲れてきたじゃないか……。頭がぼーっとするゲソ……。いつになったらこの戦いは終わるのでゲソ？ おんんん？ こいつ、身体の中で大きくなって……。あつあついうー！

次の瞬間、イカ娘の身体がピクーンと反応し、ペニスを絞りあげるように腔内が締まる。男は肉壁に搾られつつもなお深く突き入れる。身体の奥で熱い波がはじけるような未知の感覚にイカ娘の身体は戸惑いながらもびくびくとなおも締め付ける。男の精液はそのたびにびゅびゅびゅと腔に注がれる。

熱い樹液を身体の奥に放出され  
脳を焼かれるような感覚に悶えるイカ娘。  
それがアクメであると気がついた瞬間  
イカ娘はばくばくと喘いでいた。  
自分が絶頂したことが理解できなっていたのだ。

どれほどの時がたったであろう  
男達は飽くことなくイカ娘を貪る。  
手も触手も全ての穴を犯し精液で汚す。  
確認するように秘肉を押し割り  
指で精液を掻き出した。  
そのたびに尻がふるふると震える。

欲望をはき出したペニス  
ズルルツと引き抜かれ、  
その感覚があらたな快感を呼ぶ。  
休む間もなく新たなペニス  
秘肉を貫いてきた。

人間の触手は  
液を吐いたら  
縮むゲツ。  
ちやーんとわかっているゲツ  
人間はこの液を吐くと  
弱まるゲツ。  
私は負けないゲツ。  
いくらでも中に出すがいいゲツ

イカ娘はザーメンにまみれ、  
すすり泣いた。  
それでも身体は  
男の肉棒を求めてひくつき、  
快感を求めてしまっていた。  
男達は白濁液まみれになった穴を  
グチヨリとかきわけ、  
淫猥な光景を楽む。  
宴は、まだこれからだった。

ぬほお

あ  
ほ  
ほ

ぬほお

かほお

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ

「イカちゃんー！」  
「イカ娘！」

異変に気がついた女達が駆けつける。  
大勢の男達がイカ娘を取り囲み、思うさま凌辱している。  
それを見て取ると、女達はキツと男達をにらみつけた。

「よくもイカちゃんを！」

しかし、女達はばたばたと倒れていく。

対侵略宇宙人用兵器、スーパーショックガンの一撃だった。

唯一の助けが男達の手に落ちたのを知っても

どうすることもできず、

イカ娘は悲しそうに男のペニスを

舐めしゃぶるしかなかった。

なんだかわからなくてゲソが、いつの間にか邪魔者が

みんなそこらへんに転がっているじゃないか？

この男達がやったのでゲソか？ 人間同士じゃないか！

まあいいでゲソ。

これで残る障害はこやつらのみじゃないか。

あの白いへんな液を出させる度に

男どもが弱っていくのが分かるでゲソ。

愚かな人間どもよ、

今のうちにせいせいせい楽しむがいいでゲソ！

ゲソッソッソッソッソッソ！



ぐちゅぐちゅするっ……  
薄明かりの中、淫靡な音が響く。  
ぬらぬらとした粘液に包まれた触手が  
床や壁を這いずりまわる。  
イカ娘の白い肌に照らされるように  
丸く浮かぶのは、女達の尻である。  
触手がうごめき、尻を割って女を犯す。  
その度に聞こえるのは、  
あえぎ声とも悲鳴ともつかぬ、官能を  
揺さぶる淫らな声だった。  
声を楽しみつつ、男達はイカ娘に  
射精する。何度も。幾度となく欲望を  
はき出し、精子にまみれた裸体を見ては  
再び射精する。  
男達に操られるままに触手はイカ娘本人を  
蹴り、恥辱にまみれさせる。  
今は垂れ落ちるほど注ぎ込まれた精液をかき出し、  
ことさらに本人を辱めるように  
ぐちゅぐちゅと泡を立てて陰部を責めている。

屈辱に耐えるイカ娘の口に、一本の触手が滑り込んでいく。  
イカ娘は、熱い吐息を一つ吐き出し、  
鼻を鳴らしてその触手を舐め始めた。

それにしても、男達の私の穴に  
対する執着は異常でゲソ。  
人間の牝の穴にも触手を入れ  
まくっているところを見ると  
穴ならなんでもいいのでゲソか？  
しかし人間の股間は毛が生えていて  
なんかはっちいでゲソ。  
私の綺麗な股間のほうが  
やはり穴として上なのでゲソな。  
触手さえ自由になれば、世界征服は  
成ったも同然でゲソ。  
触手さえ動けば……。  
しかし触手が十本以上ないか？  
もうどうでもいいような気がするゲソ  
うっ！アソコが熱いでゲソ……  
負けないでゲソ！  
いつか必ず世界を征服してやるでゲソ！

触手さえ動けば、  
人類なぞたちまち  
征服してやるでゲソ。



イカがなもののか？

発行  
松本ドリル研究所

連絡先  
doriken2@mail.goo.ne.jp

著者  
ながの～ん・なす

印刷  
AXIS出版株式会社

ADULT ONLY





































